

一 薬剤師としての国民への貢献 ～個人運営による医薬品情報webサイトの構築

○佐藤 賛治
国立東静岡病院薬剤科

【目的】 病院薬剤師は「医療の担い手」として、医師・看護婦などの医療スタッフや病院の入院・外来患者だけではなく、広く国民に良質な医薬品情報を提供しなければならないと考える。近年普及してきたインターネット、中でもウェブサイトを構築することにより、誰でも情報を発信することが可能となった。一般の方に向けてより分かりやすい医薬品情報にするためには、入手した情報の加工や付加が必要で、それこそが薬剤師の機能の一部であると考え。演者は医薬品情報を提供するため、また病院薬剤師を世間にアピールするため、個人でウェブページを運営しており、その可能性と問題点を考察したので報告する。

【方法】 1997年9月よりインターネットプロバイダより提供されたサーバーでホームページを開設、1999年7月にorgドメインを取得しレンタルサーバーにてサイトを運営している。ページの編集は、テキストエディタ（シェアウェア「秀丸エディタ」）を使用し、シェアウェア「小次郎」でFTPを行っている。

【考察】 ウェブサイトを構築することにより個人でも低コストで情報を発信することができる反面、専門雑誌の投稿のように査読がないため、特に医療情報に関しては情報発信者の資質が問われる。ホームページを作成すること自体は簡単であるが、ホームページ作成技術より中味が問題で、医薬品情報の収集力、解析力、わかりやすい文章を書くための国語力が必要であると考え。日本インターネット医療協議会の「インターネット上の医療情報の利用の手引き」にもあるように、医療情報を受ける側の自己責任が原則であるものの、情報を発信する側の責任問題は考慮しなければならない。

ウェブサイトを開設して約4年となるが、反響・応援メールの他に最近は相談メールが多数届いており、その対応に苦慮している。今後も良質で分かりやすい医薬品情報を国民に発信していきたいと考える。

URL:<http://d-inf.org/drug/>